

避難所の違い、ご存知ですか？

避難所にもいろいろあります。災害を想定して、事前に避難所の設置や運営方法を指定されている避難所と、それ以外の避難所です。事前に手配が行われルートが決まっている指定避難所にしか物資や給水車が来ません。

広域避難所…大規模な避難に適する広大な公園など。
(鶴見緑地、大阪城公園等)

一時避難所…一時的に避難できる広場、公園、空地等。

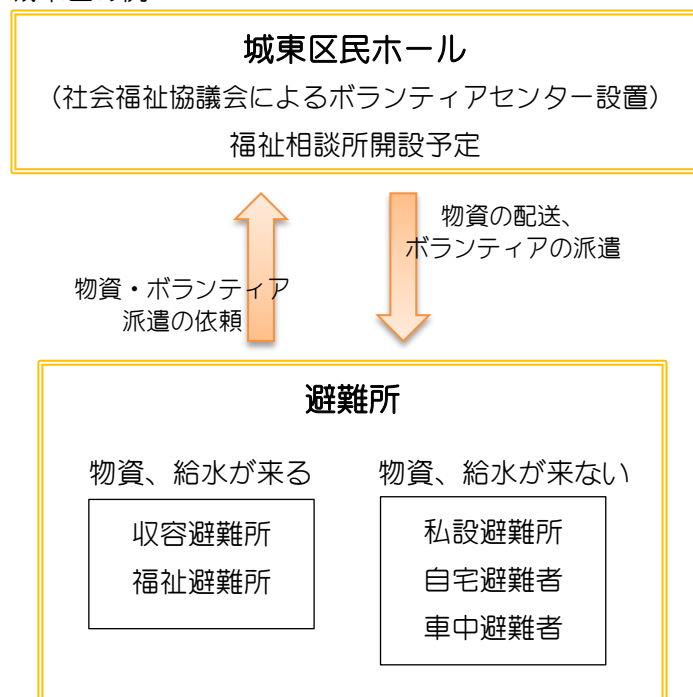
収容避難所…住居を失うなど、継続して救助を必要とする市民に対し、宿泊、給食等の生活機能を提供できる施設。学校等。

福祉避難所…高齢者、障害者、乳幼児、妊産婦、日本語が堪能でない外国人等の「災害時要援護者」を優先的に収容する施設。

私設避難所…市区町村から指定されていない避難所。

※詳しい指定場所は「城東区防災マップ」をご参照ください。マップは区役所で配布しています。

城東区の例



城東区では、右の図のように城東区民ホールが物資やボランティアの拠点になる予定です。

カセットこんろ、カセットボンベの取扱いについて

手軽に手に入るカセットこんろとカセットボンベ、ライフラインが止まった時に便利な気はしますが、誤った使い方をすると大変危険です。

普段でも、ボンベをおおうような調理器具を載せたまま加熱することでボンベが加熱され爆発したケースや、ガスが残ったままのボンベを廃棄してしまい、ごみ収集車や焼却施設内でガス漏れや火災が発生するケースがあります。

災害時に使用する時はどこでガス漏れしているかわかりません。十分注意して使用しましょう。



カセットボンベは必ず使いきって、振って音がしないことを確かめてから捨てましょう

未使用のカセットボンベや中身の残ったカセットボンベの処理方法は販売店、またはメーカーに相談しましょう。

一般社団法人日本ガス石油機器工業会 「カセットボンベ及びカセットこんろに関するお問い合わせ」

<http://www.jgka.or.jp/consumer/contact/cb.html>

カセットボンベに表示されているブランド品名や販売者名からお問合せ電話番号が分かる一覧が見られます。

販売店やメーカーが特定できない場合やカセットボンベ処理についてご不明な点がございましたら

カセットボンベお客様センター ☎ 0120-14-9996
平日 10:00~17:00

非常持ち出し袋を用意しましょう

避難袋を用意しなければ…と思いつつ、何を入れたらいいのやらと困っていませんか？

突然避難所に避難しなければならないというのはなかなかイメージしづらいものです。

けれども、そこで想定するのはなにも数百年に一度の大災害でなくてもいいのです。

お隣が火事になりました。何を持って逃げますか？

火が燃えうつるかもしれない、放水の水で水浸しになるかもしれない、そんな時に持ち出しておきたい物を入れます。また、鎮火しても現場検証が終わるまで家には入れません。その間の生活必需品、半日～1日分の水・食料も入れます。これが「一次持ち出し袋」です。

その他、あったら便利なもの、食料・水等を「二次持ち出し袋」としてまとめます。

「一次持ち出し袋」と「二次持ち出し袋」を合わせて3日分の備蓄品を含む災害対策用品と考えます。

分け方は、家族構成や個人の体力等で変わってきますが、目安は下記の通りです。

一次持ち出し袋

災害発生直後、すぐに持ち出すもの
男性 15kg、女性 10kg が目安です。

二次持ち出し袋

災害が落ち着いてから自宅に取りに戻るもの、また、避難する際に時間に余裕があれば一次持ち出し袋と一緒に持ち出すもの
援助物資が届くまでの間(目安は3日分)の食料と水、衛生用品を中心に用意します。

※最近は避難所生活中の感染症予防に力を入れることが重要だとされています。

いつ起こるか分からないのに…と置いていても「準備しておいてよかった」と「準備しておけばよかった」は全然違います。たとえそれが無駄になったとしても「準備しておいてもだめだったね」とあきらめがつくのと「準備できたのではなからうか」とあれこれ思い返すのとはその後の気持ちに大きく影響します。これを機会に何が必要か考えてみてください。



幼児に必要な避難物品の一例

あくまでも一般的な一例です。

小さい子どもに必要な物は、成長と共に変化します。こまめにチェックしましょう。



トイレが使えない時の便処理剤にもなるので
トイレトレーニングが終わっていても
入れてあげてください

「親が連れて逃げるので大丈夫」
「幼児の持ち出し袋までは用意していません」という話をよく聞きます。
混乱の中ではぐれてしまったり親に万が一のことがあった場合のために、一人で歩ける子供には、水、食料、身分証明書等、しっかり準備してあげてください。
また、実際に触らせてみてください。
ペットボトルのフタを開ける補助具等できないことを補うためのものも必要です。

子どもが

- 使えるもの
 - 開けられるもの
 - 小さめのもの
 - 使い捨てのもの
- を意識して用意します。

夏でも長袖を一枚入れておくと、夜の冷え込みにも対応できます。

※リュックに余裕があれば、軽いブランケット等